



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について④～



（調査週） 平成 23 年 第 25 週 6 月 20 日（月）～ 6 月 26 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	3.37	→	→～↓	→	→～↓
2	水 痘	1.97	→	→	→	↑
3	手足口病	1.69	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
4	伝染性紅斑	1.31	→～↑	→～↑	→	↓
5	咽頭結膜熱	1.20	↑	↑	↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 197 例で、前週報告の 194 例からほぼ横ばい。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②手足口病、③伝染性紅斑、④水痘、⑤ヘルパンギーナの順。手足口病の報告数（38 例）は、ほぼ倍増。伝染性紅斑の報告数（36 例）も、ほぼ倍増。ヘルパンギーナの報告数（12 例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（51 例）は、減少。水痘の報告数（29 例）は、やや減少。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告はなかった。郡山 HC 管内眼科定点から、流行性角結膜炎が 1 例報告された。（村井 記）

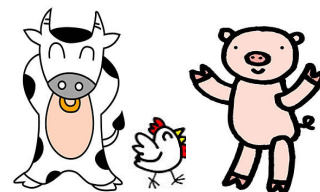
県中部地区概況 報告数は 191 例から 183 例とやや減少した。上位の 5 疾患（24 週→25 週）は、①感染性胃腸炎（62 例→59 例）、②咽頭結膜熱（21 例→30 例）、③水痘（40 例→27 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（42 例→24 例）、⑤手足口病（7 例→17 例）であった。インフルエンザは 1 例の報告があった。眼科定点からは流行性角結膜炎 3 例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第 24 週→第 25 週）は 28 例→44 例と増加。報告のあった疾患は①水痘（7 例→13 例）、②感染性胃腸炎（13 例→8 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（0 例→7 例）、④手足口病（2 例→4 例）、⑤咽頭結膜熱（1 例→3 例）、⑥ヘルパンギーナ（3 例→3 例）、⑦突発性発疹（0 例→2 例）、⑧百日咳（0 例→2 例）、⑨流行性耳下腺炎（0 例→1 例）、⑩流行性角結膜炎【眼科定点】（0 例→1 例）。（柳生 記）

【気になる話題～動物からうつる身近な感染症について④～】

〈家畜からうつる病気〉

人獣共通感染症とは、ヒトと動物の両方に感染する病原体により発症する病気のことです。今回は、家畜（ウシ、ブタなどの哺乳類）や家きん（ニワトリ、アイガモなどの鳥類）からうつる病気を紹介します。



・食中毒菌による感染症

食中毒菌のうち、人獣共通感染症としては**カンピロバクター**、**サルモネラ**および**腸管出血性大腸菌**が代表的なものです。市販の鶏肉では、約半数からカンピロバクターやサルモネラが検出されます。カンピロバクターは、ウシ、ブタ、ニワトリなどが保菌動物で、乾燥に弱く空気中ではすみやかに死滅しますが微量でも感染します。サルモネラは自然界のあらゆるところに生息し、家畜、ペット、鳥類、爬虫類および両生類が保菌します。サルモネラに汚染された鶏卵により大規模な食中毒がおこることもあります。

腸管出血性大腸菌（O157、O111 など）は、ベロ毒素というタンパク質を菌体外に分泌します。このベロ毒素により血便などの激しい胃腸炎症状が起こり、小児では溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症することがあります。ウシはこれらの腸管出血性大腸菌を無症状に保菌しており、感染原因の多くは生肉の摂取や調理器具等を介して汚染された食品によるものです。

これらの食中毒菌は 75℃以上、1 分間の加熱で死滅します。

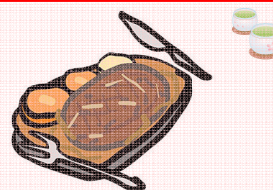
・原虫・寄生虫による感染症

クリプトスポリジウムはウシ、ブタ、イヌ、ネコの腸管で増殖し、糞便中に排出される原虫です。飲料水や水道水に混入し、集団感染事例を発生させることがあります。1993年にアメリカで数十万人規模の感染が発生し注目されました。わが国では、1994年に神奈川県で、1996年に埼玉県で感染事例がありました。クリプトスポリジウムは、1分以上の煮沸で感染力を失います。

俗に「サナダムシ」とよばれる寄生虫には、牛肉から感染する**無鉤条虫**と豚肉から感染する**有鉤条虫**があります。無鉤条虫による症状は不快感程度で、大きな害はないようです。一方、有鉤条虫は幼虫が全身に移行し寄生する（囊虫）やっかいな性質を持ち、脳に寄生した場合は痙攣や麻痺を起こし死に至ることもあります。これらの条虫も十分な加熱で感染を防止できます。

家畜からの感染を防ぐ注意点

- ・むやみに家畜に触らない。
- ・肉類は十分に加熱し、生食を避ける。
- ・飲料水は煮沸したものを使う。



〈参考〉

- ・保健環境研究センター6月だより～カンピロバクター食中毒を防ぐためには？～（第21週）
- ・気になる話題～腸管出血性大腸菌感染症の予防のために～（第18週）

（感染症情報センター 記）